

家族に勝るヘルパーはいない

8/11(土)

会場:地域包括支援センター「みさと南」

三郷市南部地区では初めてのつどいを開催した。「みさと南」の職員の方々の応援で予想以上の参加者があった。

会員外の方が多いので鎌田世話人から会の紹介があり、出席者の自己紹介、介護状況の説明と進んだ。

●要介護 2 で 88 歳の実母と 2 人暮らしの男性は、まだら呆けの諸症状に悩まされ、母を殺して自分も…と考えたこともあったと語った。2 年経った今は、デイサービスを利用し、そこで入浴や散髪をしてくれるのでありがたいとのことだった。

●6 年前から、要介護 5 で 81 歳の実母を在宅で介護している男性は、今はデイケアも行かれないが、母子の会話は故郷の鹿児島弁でスムーズに行っていると語った。彼自身 2 級のヘルパーの資格を取ったが、「家族にまさるヘルパーはいない」と実感したという。

●91 歳の実母を 7 年前から在宅介護していた女性は、昨年グループホームに入居すると、母はそこによくなじみ、彼女が行くと「妹が来た」と喜び、他の入居者からも「また来てください」と頼まれる、入居させてよかった、としみじみと語った。

経費は月約 15 万円とのことだった。

●要介護 4 で 82 歳の実母を引き取り、家族 4 人で介護している女性は、徘徊するので目が離せず、デイサービスは利用するが、ショートステイは心配で使えないと話した。

●68 歳の夫を介護している方は、8 年前から異常が見られたが、どこの病院でもはっきりせず、やっと 2 年前にアルツハイマー病と診断され、現在は要介護 3、身体は丈夫だが自分ひとりでは何もできず、今日はデイサービスに行っているので出席できたとのことだった。

「みさと南」の主任ケアマネージャーの佐藤さん、共立病院のケアマネの池田さん、民生委員の大崎さんなど、それぞれの立場からの発言があった。

最後にクリニックふれあいの大場副院長から「家族だからできることと、家族だからできないことがある」との指摘をいただき、2 時間を超えるつどいを終えた。

次会は 11 月にクリニックふれあい早稲田で開く予定。